

## 政務活動費活動報告（研修）

- (1) 研修名：財政比較の手法  
財政問題質問のポイント
- (2) 参加者：夢みらい 小川 吉則、戸崎 克司
- (3) 日時・場所：令和7年7月31日 木曜日 10:00～12:30  
13:30～16:00  
京都JAビル

### 【1. 研修目的】

彦根市の厳しい財政に関し、現状を正しく理解して改善していけるよう、議員として財政に関する正しい知識を得るため。

### 【2. 結果報告】

#### (1) 内容

講師：黒瀬雄大

大阪府交野市に勤務し、地方公務員として税務室、財務課、こども室を経験する。その後、大阪府交野市の地方議会議員となり、自治体の効率化、民間活用、働き方改革、自治体DXに取り組む。落選後、ITコンサル企業に就職。地方自治体や民間企業のDXを通じて、民間の立場から効率化に取り組む。現職はコンサルタント、データサイエンティスト。

講座参加者が4～5名の少人数のため、各参加者の市町の財政状況を令和5年度決算状況表および令和5年度財政状況資料集にて、具体的に説明・解説がしてもらえた。

特に、他市町との財政比較分析表では、人口や財政規模が同程度の市町との比較にて彦根市の状況が理解できた。

財政構造の弾力性

経常収支比率 類似団体内順位 29団体中28位

人件費・物件費等の状況

人口1人当たり人件費・物件費等決算額 類似団体内順位 29団体中25位

公債費負担の状況

実質公債費比率 類似団体内順位 29団体中21位

と、改善が必要な状況である。

また、経常収支比率の分析欄では、数字の説明文であり内容の分析になっていないのではないかと指摘もあった。

実質収支額は黒字が当然であり、実質単年度収支が重要とのこと。彦根市は令和5年度で実質単年度収支が赤字となっており、これが数年続くようだと要注意とのこと、令和6年度の決算が注目される場所である。

午後は、「財政問題質問のポイント」と題し、わがまちの財政を知り、役所に指摘すべきポイントにつき学習した。

どの自治体でも「企画」「人事」「財政」の3つのポストが重要という。これらの部署には優秀な職員を配置し、これらは本庁の、市長室の近くに配置されていることが多い。

監査委員と議会の違いとして、

監査委員による決算監査は、「数字があっているか」「正しく証憑が保存されているか」など、外観的監査がメイン

議会の決算認定は、「効率的に運用されているか」「当初の目的を達成できているか」など、事業適正性の審査がメイン

財政の問題から言えば、過去の事例が参考となる。

夕張市の財政破綻は、

- ①炭鉱閉山後の社会基盤整備
- ②行政体制の効率化の遅れ
- ③観光施設への過大投資
- ④歳入の減少
- ⑤不適正な財務処理手法

が要因となった。

近年財政危機に陥った都市としては、京都市、富山市、銚子市 がある。

財政危機に陥るパターンの1つに

身の丈に合わない投資→必要経費の増加→実質単年度収支悪化→基金取り崩しおよび公債、公債費増加→財政危機

がある。彦根市はこのパターンをたどっている。

実質収支ではなく実質単年度収支を見ること。

実質単年度収支・・・実質単年度収支は、単年度収支に黒字要素となる基金（貯金）

積み立て額等を加え、赤字要素である基金（貯金）引き出し額を差し引いたもの。

単年度収支は黒字でも、実質単年度収支が赤字なら、それは貯蓄の取り崩しなどにより資金をやりくりしていることになる。

## (2) 考 察

今回の研修資料の中に、「本セミナーの目的と本日の流れ」の項目があり、その中で「地方議員として必要なのは、財政の専門家となることではありません。市民の代表として、職員と対峙するために必要な財政の知識を身につけましょう。」といった記載がある。専門知識は職員の方がはるかに優れており、確かに議員は専門家になる必要は無いであろう。監査委員と議会の違いにも記載があったように、議員は「数字があっているか」「証憑が保存されているか」をチェックするのではなく、「効率的に運用されているか」「当初の目的を達成できているか」等中身のチェックが重要である。

講師は、地方公務員の経歴もあり、コラムとして

「年度末は予算使い切れ」は本当？と題し、多くの役所では「予算を余らせず使い切れ」は本当です。と言い切っている。

これは、ある意味役所の部署としては当然のことかもしれない。しかし、議員としてはこれだけ財政の厳しい折り、必要などころには必要なだけ使うが無駄なものを見直し、節約に努めるよう目を光らせなければならない。

今後、二つの大きな事業の市債の償還が始まり、ごみ処理施設の問題もあり、財政的には予断を許さない状況が続くことが予想される。市の財政健全化を目指し、行政サイドと協力をしながらも監視を怠らず、しっかりと議会の、議員の責務を全うしていくことが重要である。

## 政務活動費活動報告（研修）

- (1) 研修名：財政比較の手法
- (2) 参加者：彦根市議会 会派 夢みらい  
出席者 小川吉則 戸崎克司
- (3) 日時・場所：2025年7月31日 10:00～12:30  
京都 JA ビル

### 【1. 研修目的】

財政状況を的確に把握・比較し、政策判断や予算編成に活かすため。

### 【2. 結果報告】

#### (1) 内 容

- 財政指標の意義と限界
  - 実質赤字比率、経常収支比率、将来負担比率など、総務省が公表する主要財政指標の読み方と留意点。
  - 単年度ではなく複数年比較で傾向を見ることの重要性。
- 比較の視点
  - 他自治体との比較において、「類似団体」「近隣自治体」「同規模人口」など、どの比較軸を採るかが分析結果に影響。
  - 単なる数値比較に留まらず、背景要因（地理・産業構造・高齢化率など）の理解が不可欠。
- 類似団体比較カード、財政状況資料集をもとに本市と他の市町とを比較
  - 地方財政状況調査（決算カード）の活用法。
  - 地方財政白書や財政比較分析表の使い方。
- 政策提案との結びつけ
  - 財政データを根拠にした政策提案の重要性。
  - 市民説明責任を果たすための「財政の見える化」の工夫。

## (2) 考 察

本市の類似団体比較カード・財政状況資料集を項目ごとに詳しくかつわかりやすく、本研修を通じて他の市町と比較しながら、財政指標の「読み方」だけでなく、「読み解き方」や「使い方」まで深く学ぶことができた。他自治体との単純な比較では見えてこない、地域特性や将来課題を見据えた財政分析の視点が非常に参考となった。議会活動において、定期的な財政指標の把握を行うとともに、他の自治体との比較を通じて客観的かつ説得力のある政策提案につなげていきたい。

## 政務活動費活動報告（研修）

- (1) 研修名：財政問題質問のポイント
- (2) 参加者：彦根市議会 会派 夢みらい  
出席者 小川吉則 戸崎克司
- (3) 日時・場所：2025年7月31日 13:30～16:00  
京都 JA ビル

### 【1. 研修目的】

財政の健全性を適切にチェックし、将来を見据えた政策提案を行うために、議員が持つべき財政的視点や、効果的な質問の構成・着眼点を学ぶこと。

### 【2. 結果報告】

#### (1) 内 容

- 数値の背景を読む力
  - 実質収支や経常収支比率だけでは判断できない、財政構造の偏りや将来負担の大きさに注目。
  - 「黒字=安心」ではなく、基金の取り崩しや繰入金の実態にも目を向ける。
- 比較の意義と使い方
  - 他自治体との比較は、単なる順位付けではなく、自市の特徴や課題を炙り出すための「手がかり」。
  - 「近隣」「類似団体」「人口規模」など複数の観点から見ることが重要。
- 質問の型を持つ
  - 議会質問では以下のような流れを意識すると説得力が高まる。
    - ① 問題提起
    - ② 財政指標や資料による根拠提示
    - ③ 他自治体との比較
    - ④ 改善の方向性・提案
- 一時的な対応への注意喚起
  - 一時的な財源対策（基金取り崩し・臨時交付金活用など）が常態化していないかを質問で明らかにする視点。
- 市民への説明責任
  - 難解な財政の話をいかに市民に伝えるかが、議員の力量に直結。
  - グラフ化や比喻、生活実感に基づいた表現の工夫が有効。

## (2) 考 察

財政指標の表面的な確認だけでは見えない構造的な問題を掘り下げる重要性を再認識した。とくに、「将来世代への負担」や「見かけ上の健全化」に対する疑問を持ち、深掘りする姿勢が問われていることを感じた。

また、質問の際には単に問題を指摘するのではなく、エビデンスを基にした改善提案をセットで提示することが説得力を高めるという視点は、今後の議会活動において大いに活かせる内容であった。

- ・ 決算審査・予算審査における財政的視点からの質問の質を向上。
- ・ 他自治体との比較を取り入れたデータ分析を行い、政策提案に活用。
- ・ 市民向け資料や SNS 発信における財政の「見える化」の工夫。
- ・ 財政白書や財務書類の読み解きと、それを活かした議会質問の実施。
- ・ 基金の取り崩しには要注意で、財政は黄信号。
- ・ 公共施設等総合管理計画より、現況及び将来の見通し。
- ・ 公共施設等の現在要している維持管理経費、維持管理・更新等に係る中長期的な経費の見込み及び、これらの経費に充当可能な地方債・基金等の財源見込み等。